

障害児教育の向上

「障害児教育の向上－障害児教育の教育目標・教育評価、自閉症児を中心に－」

【概要】

地域の特別支援学校教員と鳥取大学教員の共同研究により、障害児教育における教育目標、教育評価に関する検討を行い、特に自閉症教育における開拓的教育実践を開発する。

教育における目標評価の研究が進む中で、障害児教育においても、教育目標、教育評価の「客観性」に関する実践研究が求められているが、その「客観性」は、教育的価値の吟味された教育目標ではなく、評価基準（ベンチマーク）に置き換えられる傾向が顕著である。これは、教育の中核的な部分である児童生徒の知的活動、情動的活動の軽視につながりやすく、学校現場の教員からも疑問の声が多く上がっている。

これを踏まえ、鳥取県を中心として、島根県、兵庫県、京都府、滋賀県、大阪府、東京都などの特別支援学校教員と障害児教育の教育目標、教育評価に関する共同研究をすることにより、開拓的な教育実践理論構築を試みる。その際、障害カテゴリーとして、社会性の障害である自閉症を主な対象とする。

【キーワード】 障害児教育、教育目標、教育評価、自閉症

【参加メンバー】 1) 学内者 山根俊喜（地域教育学科）：教育実践の教育学的検討
寺川志奈子（地域教育学科）：教育実践の障害児心理学的検討
大学院生、学部生：実践検討の討論参加、実務補助
2) 学外者 越野和之（奈良教育大学）：教育実践の障害児教育学的検討
赤木和重（神戸大学）：教育実践の発達心理学的検討
川地亜弥子（神戸大学）：教育実践の教育学的検討
國本真吾（鳥取短期大学）：教育実践の障害児教育学的検討

【計画】 <初年度>
障害児教育における教育目標、教育評価に関する質問紙調査・聞き取り調査、および先進事例の調査を行う。主な対象は、特別支援学校とする。公開研究会を行い、先進事例の報告、協議などを行う。
<2年目>
研究成果の出版。自閉症児教育の教育目標、評価について検討。
<3年目>
自閉症教育における教育目標、評価について。障害者を包摂するインクルーシブな地域社会を構想することに資する。（本年度はこれに当たる。）

【地域連携先】 鳥取県立特別支援学校（養護学校）、鳥取短期大学